

【健康会館】からだところの相談（メンタル相談）実施状況（令和2年度）

【令和2年度】（受付時間）8時30分～17時（土日祝、12/29～1/3は休み）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受付数	4	2	4	1	7	6	7	15	7	9	11	2	75
人数	3	2	3	1	7	6	7	10	7	9	11	2	68
男性	0	0	0	0	2	1	2	2	3	4	5	1	20
女性	3	2	3	1	5	5	5	8	4	5	6	1	48

● 年代別、相談原因別【男性】

	家庭	健康・病気	経済・生活	事業・勤務	男女	学校	その他
10代							
20代	1						
30代					1		1
40代		1					
50代		3	5				1
60代	2	1					
70代	1						
80歳以上							
不明	2	2					1

● 年代別、相談原因別【女性】

	家庭	健康・病気	経済・生活	事業・勤務	男女	学校	その他
10代						1	
20代	1						1
30代	1		1				
40代		4					2
50代	1	2					2
60代	1	4			1		4
70代	2	4					1
80歳以上							1
不明	5			4	1		9

（その他）：転院希望で病院紹介、隣人トラブル、インターネット上トラブル等

※1人で多岐にわたる相談等が含まれるため合計数は一致しない。

● 主な相談内容と対応（要旨）

- 【40代女性】突発性難聴の後遺症が死ぬほどつらい、その他も色々ストレスがある
→精神科受診勧奨、病院への連絡と予約調整
- 【女性】婚約者の精神科病院入院後、立川市の受け入れ先探し中だが病院の対応悪くつらい
→病院への連絡と予約調整
- 【女性】夫と離婚したい→傾聴、突然切電される
- 【60代女性】病気、家族との確執、仕事トラブル
→女性総合センターアイム（以下、アイムと表記）のカウンセリング紹介
- 【男性】息子のこと。精神科から退院したが不安。できたら入院させたい
→通院先のMSWとの相談をすすめる。
- 【30代女性】精神疾患持ち。コロナで夫の仕事激減し自分も仕事と子育ての両立がつらい
→アイムのカウンセリング紹介。今後も考え、母子保健係にも情報提供
- 【女性】40代の息子がひきこもっており、精神的にもおかしい→多摩立川保健所を案内
- 【70代女性】息子（精神疾患持ち）との関係と自分の不眠（内服中）についての相談
→アイムのカウンセリング紹介
- 【30代男性】自殺未遂をしたと来館（精神科通院中）→傾聴、通院先でも聞いてもらっていた。
本人の了承得て障害福祉課と保健所へ相談情報提供。
- 【40代男性】立川市民の心の声が聞こえてつらい（精神疾患持ち）→かかりつけ医で相談を、本人の了承得て障害福祉課へ相談情報提供
- 【50代女性】自殺未遂をした（電車で飛び込もうとして女性に止められた）生保受給中
→傾聴し落ち着いたところで生保CWへの連絡と病院受診をすすめる。
- 【女性】コロナで実質完全失業状態の夫が自殺してしまうのではと心配
→病院への連絡と予約調整。
- 【女性】立川市内の実家にいる。2歳児の子育てにイライラし、自己嫌悪から漂白剤を飲んだ。
→精神科受診歴あり、本人希望もあり近隣病院紹介。また立川での子育ての相談先として、健康会館を紹介
- 【女性】職場のパワハラに悩んでいる→傾聴し、労働監督署紹介。
- 【50代女性】物忘れがひどくなり、認知症の検査を受けたが結果が出るまで不安→傾聴
- 【10代女性】大学でリモート授業が始まったが、教師の対応がひどくつらい（みんなの前で罵られた）。大学のカウンセリングもあるが名前を言うので、余計にひどい扱いになるのではないかと不安である。→秘密にして欲しいことを前置きしてカウンセリング相談を受けることを提案。
- 【40代女性】生活福祉課より、本日生保受給希望で面接したケースが首吊りに失敗したと言っていた。→通院している医療機関へ連絡。その後生保受給手続き終了。
- 【70代女性】昨年夫を亡くし、死にたいと思ってしまう。話し相手がいない。自分の性格から仕事が続かない。→仕事の相談先（シルバー人材センター）や、身近な相談先（民生委員、包括等）提案するもすべて否定し一方的に切電される。
- 前の住居地で産後に不安定になり保健師に相談していた。2子が生まれ、転居し不安。立川での相談先を知りたい【20代女性】→母子保健係地区担当保健師へつなぐ

- 【50代女性】海外赴任中の夫がおり、コロナの影響で帰国できず会えていない。同居の息子や娘はあまり親身になってくれない。友人には、寂しいという気持ちは恥ずかしくて話せない
→傾聴する。不安や胃腸の症状が長く続いており、心療内科を一度受診することを伝え納得された。
- 【男性 市外】辛くて早く入院したいのに、今のクリニックの医師は○病院しか紹介してくれない。△病院がいい。前、立川市に住んでいた時は調子が良く、気持ちは今も立川市民であると。
→立川市内のクリニックを希望され紹介した。
- 【女性】上司とうまくいっていない。休暇やテレワークをしているが、明日打合せがあり出社しなくてはならない。会社の相談窓口は担当者が不在で話せず。
→傾聴。市内の心療内科のある医療機関を伝えた。
- 【50代男性】すぐに死にたい。失業で就職活動中。借金と家のローンがある。持病は双極性障害とアルコール依存症で定期受診している。家族は妻、長男（独立）、次男。自殺未遂で入院歴あり。市のサービスは受けていない。生活資金貸付を240万円受けている。
→収入はあり生保は難しいと判断。状況的に入院を勧めるが以前の入院の記憶から消極的。主治医へ連絡し状況聞き取りと情報提供。その後も何度か電話があり受診の必要性を伝えるも難色。
- 【60代男性】知人からのひどい誹謗中傷に悩んでいる。脳梗塞後ストレスに弱くなった。法的な知識を得て、対抗しようと思い法律相談を予約したが、担当より健康推進課を案内された。
→脳梗塞のフォローを脳神経外科クリニックで受けている。精神科での受診歴ないが、受診したいと。医療機関案内した。
- 【70代女性】実母（90代）を亡くした。自宅介護をしていたが、ショートステイ中に死去。実母は再婚で父方の実家からいじめを受けていた。考えがまとまらず泣いてしまう。
→既に内科で受診をしているらしく、内服である程度効果を実感できていると。傾聴
- 【60代男性】特定保健指導面談担当者より。独居（離婚歴あり）既往：膀胱がん。コロナで身近な人が2人亡くなったり、友人の自死があり、何もできなかったことに情けなさや無力感を感じている。ふとした時に死にたいと思ったことがあった。
→2週間後の電話フォローがあること、緊急の相談窓口の紹介もされており、現時点では緊急的ではないと判断。2週間後のフォロー時の様子など報告していただくように事業者へ伝える。
- 【30代女性】父をがんで亡くした。実母73歳の介護や自閉症の息子がおりその世話も大変。実家の遺産相続のことで妹と亀裂があり相談できない。辛い気持ちを聞いて欲しい。
→以前に障害福祉課でも相談した様子。自身のことは治療も含めて障害福祉課へ、実母は介護度変更申請も含めてケアマネに相談をすすめる。
- 【20代男性】本人の姉より相談が入る。「弟が死にたいといっている」高校から不登校、中退し在宅。母はシングルマザーで外国人、うつ病で通院中。本人もうつの疑い。
→精神科受診が必要。受診先や相談先は後程連絡すると伝える。（その後薬物使用で逮捕される）
- 【40～50代女性】生保受給中、PTSD/うつ病あり通院中。線維筋痛症疑い。継父（離婚）から被虐歴あり。自殺未遂や自傷行為も繰り返している。離婚歴あり。主治医は「母の影響で今の精神状態がある。母の近くへ行くのは止めるべき」と言っている。線維筋痛症の専門的治療希望や、血便もある。
→必要なことはできている。母への対応は主治医と同意見と伝える。線維筋痛症については主治医に紹介状を書いてもらうのが良いこと、血便に関しては消化器内科を早急に受診するべきと伝える。